

# あけましておめでとうござい ます

理事長 岡本祐幸

組合員の皆様、良い初夢を見られたことと思います。本年も皆様のご多幸を祈ります。

さて、夢というところで、幾つか思い出すことを書きます。まず、私は高校卒業後、米国のブラウン大学に留学しました。しかし、英会話の勉強は真剣にしたことがなかったため、いきなり、講義を聴いても、聞き取れなくて困りました。講義担当の先生に自分は日本から来たばかりだから、講義はゆっくり喋って下さいとお願いすると、皆、オーケーと快諾はしてくれましたが、5分後には普通のスピー



ドに戻ってしまいます。英語はいつになったら聞き取れるようになるのかと不安な毎日でした。そして、思ったのは、英語で夢を見るようになるならば、かなり英会話ができるようになっていくということだと思います。これには相当な時間がかかるように思いましたが、驚いたことに、割とすぐに英語の夢を見るようになったのです。そして、夢の中では、日本人は日本語、アメリカ人は英語をしゃべっていました。しかし、私が留学後割とすぐに見るようになった夢は、自分が外国人を相手に英会話に四苦八苦している悪夢なのでした。

さすがに、2年生になるとこのような夢は見なくなりました。その代わり、次のような夢をよく見るようになりました。数学の科目で毎週出される宿題が難しく、どうしても1、2問の証明問題が締め切り日の前日夜になっても解けないのです。夜遅くまで頑張っても駄目で、もう諦めようと寝ます。そして、眠りの中で問題を考え続けている

ようです。すると、時々、夢の中で証明の仕方を思い付き、眼が覚めるのですが、思い付いた解答は支離滅裂なことが多いのです。しかし、正しい解を得たことも何回もありました。

時代は進み、私が奈良女子大学理学部物理学科の助教授になった頃、ミネソタ大学ダールズ校で客員准教授として、3ヶ月間、大学院の電磁気学の講義をしたことがあります。怠慢な私は講義ノートを準備せずに行きました。そして、毎回、講義の前日に、教科書の対応部分のノートを作りました。しかし、時々、どうしても、教科書にある式の一つが導出できないことがあります。すると、講義中に恥をかきたくないと思い、徹夜で必死に考えることになりました。そして、最後は諦めて、2時間でも寝ようと寝てしまおうと、その間にも考えているようですが、今度は起きても解は得られていません。しかし、不思議なことに、アパートから講義室まで、どうしようとして冷や汗をかきながら歩いていく20分の間に、はつと式の導出法を思い付くのでした。

ここまでは、何かに追い詰められて私自身が実際に見た夢の話を書きました。次の話は私の知人の夢の話です。コンビニなどない時代の話です。彼がある国立研究所の助手だった頃、そこは人里離れた場所、一番近いレストランまで歩いて1時間以上かかるような所でした。研究所の食堂は、土曜日の昼食時間が終わると月曜の朝食まで閉まります。普通、若い教員や学生は、食事の時間が来ると、車を持っていく人に外のレストランに連れて行ってもらっていたのですが、彼の場合は、面倒なので、土曜の昼ごはんを食べてから月曜の朝食まで何も食べなかったそうです。すると、彼が週末よく見た夢は、目の前にアンプが現れ、それを取ろうと手を伸ばすと、パツと消えてしまふというものでした。

皆さんが見た初夢が良い内容でしたら、正夢になることを祈ります。